

# 社会学特講（水2前期）授業計画

太郎丸 博\*

2010年4月12日

## 1 コースの目標

官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるようになることをが、この授業の目的である。前半は基礎的な計算法やテクニックについて講義し、後半は応用的なトピックに触れる。

## 2 オフィス・アワー

水、金の 12:00~13:00。時間がかかるかもしれない相談はあらかじめアポを取ること。

## 3 参考書と補助教材

### 3.1 教科書

与謝野有紀ほか編, 2007, 『社会の見方、測り方—計量社会学への招待』有斐閣。その他適宜プリントを配布するので、保管して授業の時は持参すること。教材の残部は翌週までは保存するが、それ以降は廃棄することがあるので注意。

### 3.2 参考書

1. 谷岡 一郎『データはウソをつく-科学的な社会調査の方法』（ちくまプリマー新書）
2. ダレル・ハフ『統計でウソをつく法-数式を使わない統計学入門』（ブルーバックス 120）
3. 上田 尚一『統計グラフのウラ・オモテ』（ブルーバックス）
4. ハンス・ザイゼル（佐藤郁哉訳）, 2005, 『数字で語る：社会統計学入門』新曜社

## 4 評価

試験 80%, 宿題 10%, 出席 10%

\* 連絡先: tarohmaru.h@hs2.ecs.kyoto-u.ac.jp, L510 客員助教教授室, 075-753-2446

表 1 各回の予定

4/14	イントロ、1-4 代表地と散布度
4/21	1-5 分布の形をグラフで明らかに
4/28	1-6 分布の不平等を測る
5/5	こどもの日（休校）
5/12	クロス表の計算
5/19	2-2 カテゴリカルな2つの変数の...
5/26	3-5 社会的地位の結びつきの...
6/2	3-6 社会的カテゴリー間の...
6/9	試験 1
6/16	2-6 質的データからメカニズムを...
6/23	2-1 連続的な二つの変数の関連...
6/30	3-11 複数の項目の信頼性を...
7/7	3-1 行為者間の関係を描く
7/14	ISA（休講）
7/21	3-2 行為者の位置関係を調べる
7/28	3-3 結びつきを指標化する
8/4	試験 2

実質的受講人数によって、配点や評価法を変更することもあり。

### 4.1 宿題

毎回簡単な宿題を提出してもらう。

## 5 授業の進め方

各回の予定は、表 1 を参照。各回の授業は基本的には以下のような流れで進める予定。

1. 前回の宿題を 1~2 人程度に報告してもらい、それについて質問や講評を行う。
2. 講義。

## 6 受講に必要な知識・スキル

1. 日本語。
2. 四則演算と平方根の知識。